



最終報告書

ミヨベ・ロータリークラブ国際プロジェクト



プロジェクト資金提供者:

ホバラ・ロータリークラブとキガリ・ヴィルンガ・ロータリークラブ

実施機関:

NPO 法人 Think About Education in Rwanda

プロジェクト 期間:

2020年/2021年 - 2023年/2024年

最終的な財務フェーズ:

報告された総予算: 16,324,360Frws

1. ミヨベプロジェクトの紹介

「ミヨベ・プロジェクト」は、保原・ロータリークラブ(日本)とキガリ・ヴィルンガ・ロータリークラブ(ルワンダ)が共同で行い、NPO 法人「Think about Education」の支援を受けています。ルワンダで開始されたこのプロジェクトは、教育への全体的なアプローチを通じて、ミヨベの歴史的に疎外されたコミュニティに力を与えることに焦点を当てています。

過去3年間、ミヨベプロジェクトは大きな成果を上げてきました。このプロジェクトは、能力開発とマインドセットの変革を優先することで、ルワンダのコミュニティが成功するための知識、スキル、自信を身につけました。この取り組みは、いくつかの主要分野で具体的な結果につながっています。

このプロジェクトは、食料安全保障、衛生、衛生慣行を実証的に改善し、近代的な農業技術を導入しました。これらの進歩は、ルワンダのコミュニティの生活の質の向上とより持続可能な未来に貢献しています。

2. 実施した活動

2.1 温室設備

コミュニティ開発のさまざまな側面におけるミヨベプロジェクトの成功に基づいて、ユニークな温室設備が実装されました。プロジェクトの地理的な要件から、8メートル×30メートルの寸法を持つ単一の複合温室が最も効果的な解決策であると判断されました。ミヨベの設置ロケーションでは、当初検討していた小さめの2つの温室を設置することは現実的ではありませんでした。



MiyoveHMP コミュニティに
温室を建設



設置した温室に貯水設備と灌水工事を行う住民

この複合温室は、多面的な目的を果たします。まず、雨水の収集設備として機能します。これは、水不足が課題となる可能性のある地域では特に重要です。雨水を貯留する温室設計により、作物の栽培に効率的に使用できます。第二に、温室は年間を通じて食料安全保障を促進します。ルワンダの気候はさまざまですが、温室の制御された環境は、外部の気象条件に関係なく、一貫した野菜生産のためのスペースを提供します。



始めて温室に植えられたトマト



この革新的なソリューションは、コミュニティが新鮮な野菜の信頼できる供給源を育てることを可能にし、コミュニティに力を与えます。農産物は、一部を販売してコミュニティに収入をもたらす方法と、残りの野菜を直接消費して、すべてのメンバーが栄養価の高い食品にアクセスできるようにするという2つの方法で利用できます。この二重のアプローチは、地域経済を強化するだけでなく、コミュニティのより健康で食料安全保障の未来を促進します。

2.2 農業と収穫

2023-2024年は、コミュニティに新たな希望と繁栄をもたらしました。種子、肥料、基本的な農業訓練を提供した寛大なイニシアチブのおかげで、住民は繁栄する2.5ヘクタールの土地を耕作する権限を得ることができました。その成功はすぐに起こり、13トンものアイルランド産ジャガイモが収穫され、家族にとって栄養価の高い食料の重要な供給源となり、潜在的な収入源となりました。



新たな土地を耕作する住民

これだけではありません。コミュニティは、最初の温室作物を活用することにしました。彼らは細心の



注意を払ってトマトを育て、その努力は1.8トンの豊かな収穫で報われました。キガリの大手スーパーマーケットで農産物を販売するスリルは明らかでした。これは、コミュニティにとって切望されていた財政的な後押しを生み出しただけでなく、達成感と誇りを植え付けました。

その恩恵は、目先の利益をはるかに超えていました。このプロジェクトは、コミュニティ内での協力と自立の精神を育みました。植え付けや手入れから収穫や販売まで、土地で協力することで、社会的な絆が強まり、共通の目的意識が生まれました。彼らの努力の成功を目の当たりにすることで、彼らの将来の農業への取り組みについて新たな楽観主義が芽生えました。コミュニティのメンバーは、もはや単なる支援の受け手ではありませんでした。彼らは、自分たちの経済的運命を形作ることができる力を持った生産者でした。

今後、シーズン A2023 は継続的な成長の出発点となります。得られた知識と経験により、コミュニティは農業慣行をさらに洗練し、生産を拡大する準備ができています。この新たに得た自信は、食料安全保障や収入創出だけでなく、コミュニティの全体的な幸福と士気の面でも、明るい未来を約束します。

3. プロジェクトの段階的廃止(Miyoveプロジェクトの終了式)

ギチュンビ地区で成功したコミュニティ開発プロジェクトの終了を記念して、閉会式が開催されました。式典には、地区のリーダー、地元のリーダー、コミュニティのメンバーが出席しました。日本からは NPO-TER メンバーと保原ロータリークラブの会員の皆さんが Zoom 会議を通して参加しました。閉会式はその場にいたミヨベの住民全員から強い感謝の気持ちが込められたものとなりました。彼らはプロジェクトがもたらしたプラスの影響を認め、今後の継続した支援を切望しました。コミュニティリーダーが住民を代表して発言し、プロジェクトが彼らに目標を達成し、コミュニティを発展させる力を



与えたことを強調しました。彼らはプロジェクトの結末に悲しみを表明しましたが、一方で過去3年間の支援に強い感謝の意を強調しました。



閉会式の様子



来賓挨拶



住民の感謝の意を表した寸劇



収穫した農産品で食事する子供たち



住民代表の感謝の言葉

終わり